

クラス	TU307	担当教員	齋藤一晴
テーマ	対話と共生のための授業づくり ―歴史学、社会科教育がめざすもの―		
著書・論文 研究課題等	<p>(著書)「中国歴史教科書と歴史対話 ―日中韓3国共通歴史教材づくりの現場から―」花伝社、2008</p> <p>【論文】「中国の歴史教育と日中授業交流」歴史科学協議会『歴史評論』7月号、2017</p> <p>「東アジアにおける共同歴史教材の現在 ―自国史の問い直しと歴史教育―」歴史学研究会 『第4次 現代歴史学の成果と課題』第3巻、績文堂出版、2017</p> <p>「歴史学、歴史教育の現在 ―歴史を学ぶ楽しさを国境を越えて考える―」 東京歴史科学研究会『歴史を学ぶ人々のために 現在をどう生きるか』岩波書店、2017</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：歴史教育・社会科・歴史学・歴史対話・日韓および日中授業交流・歴史認識・共同歴史教材			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>【授業内容】</p> <p>ゼミでは2つのことに取り組みます。「共通テーマ」と「個人テーマ」です。前者は、ヨーロッパや東アジアで開発が進む共同歴史教材の作成過程、活用事例から、既存の教科書や授業にどのような新しい内容、教授法を提起できるのか過去の実践例も紐解きながら全員で検討します。また、歴史認識の異なる他者とどのような対話が可能なのかを、国内だけでなく国境を越えて現地で考えます。</p> <p>後者は、各自の問題意識にもとづいた研究テーマを個人報告のスタイルで深めてもらいます。今年度の卒業論文のテーマは、以下になります。</p> <p>①日米の歴史認識の相違を両国の歴史教育や歴史教科書、博物館展示から考える…原爆認識の相違など ②日本の教科書制度の現状と課題・ICT教育の可能性と課題…よりよい教科書制度、教科書とは何か ③子どもたちの生きづらさとは…自己肯定感から考える</p> <p>3年生には、障がい児教育の国際比較、アナログゲームの教材活用研究、ICT教育の現在と課題、黙々清掃・給食の学校教育における役割と限界、近現代日本における政軍関係などをテーマに深めている学生がいます。</p> <p>【授業計画】</p> <p>3年生：前期…共通テーマに関する個人発表と班発表／後期…個人テーマの報告と卒業論文のテーマ検討 4年生：前期…共通テーマに関する討論と卒業論文の構想報告／後期…卒業論文の執筆・卒論報告会</p> <p>【その他】</p> <p>3年生は、年度末に各自の問題意識にもとづいた4000字以上のレポートを提出してもらいます。4年生は卒業論文を提出してもらいます。また、3年生のゼミでは、毎回、担当者が時事ネタを紹介する機会を設け、現代社会が抱える今日的諸課題の把握に努めます。なお、教採や各種資格の対策は行いません。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミは講義とは異なります。ゼミでは私から教えることはあまりありません。3年生、4年生の2年間で何を、どうみずから深めたいのか明確になっている方を希望します。社会科や歴史が好きだから、将来、教員として上手な授業ができるようになりたいから、という希望動機だけだと、入ってからがっかりするかもしれません。つまり、みずから学び、行動することが基本になります。私は伴走者という存在です。</p> <p>ゼミに入るうえで、学校教育専修以外の学生も歓迎します。また、教員になる、ならないは条件としません。2年生までの成績、知識量、語学力なども同様です。ゼミ希望者がどのような問題意識を持っており、それがいかなる経験や学びを通じて生じたものなのか、いつまでに、どうやって問題意識を深めるのか具体的な計画案を出してもらい、その実現可能性とオリジナリティを選考基準とします。</p> <p>ゼミではフィールドワークも重視しています。希望者は、国内での調査や研究会、学会への参加。中国や韓国における国際授業交流（通訳あり）などに参加する機会があります。これまで、上海・南京・ソウル・晋州・京都・戦争と平和の資料館ピースあいち・東山動植物園などに行きました。また、主体的にサブゼミや他ゼミとの合同企画、懇親会などを組織し実施できる方を期待します。</p>			